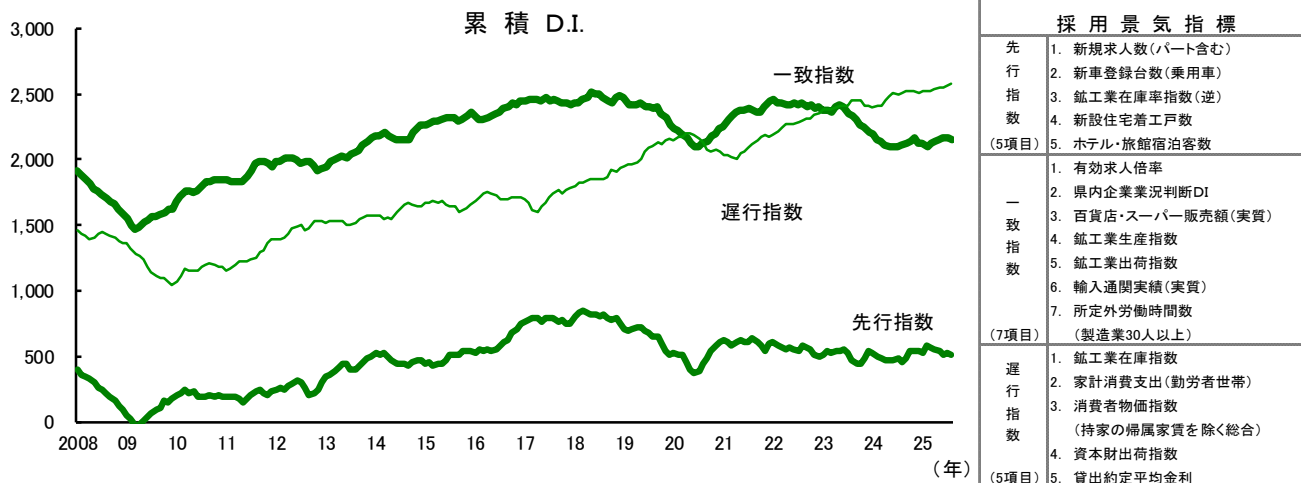


1. 景気動向指数

2025 年 8 月の景気動向一致指数は、有効求人倍率、県内企業業況判断 DI、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、所定外労働時間数（製造業 30 人以上）の 5 項目がマイナスとなり、全体で 28.6%と 6 カ月ぶりに 50.0%を下回った（7 項目のうちマイナス 5）。

先行指数は、新規求人数（パート含む）、新車登録台数（乗用車）、鉱工業在庫率指数（逆）の 3 項目がマイナスとなり、全体では 40.0%と 2 カ月ぶりに 50.0%を下回った（5 項目のうちマイナス 3）。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、家計消費支出（勤労者世帯）、貸出約定平均金利の 3 項目がプラスとなり、全体では 60.0%と 5 カ月連続で 50.0%を上回った（5 項目のうちプラス 3）。



注) 今月の累積DI＝前月の累積DI＋（今月のDI－50）

一致指数には1,000、遅行指数には600、先行指数には500をそれぞれ加算してある。

資料)宮崎県総合政策部統計調査課

景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を 3 カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の 3 つがある。一致指数が数カ月連続して 50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

景気動向指数＝（プラス項目数＋横ばい項目数×0.5）÷（プラス項目数＋横ばい項目数＋マイナス項目数）×100（%）

2. 鉱工業生産

8 月の鉱工業生産指数は、72.3 で前年同月比 3.9%増と前年を上回った。

主要業種別にみると、繊維（同 20.7%減）と食料品（同 1.6%減）は前年を下回ったが、電子部品・デバイス（同 42.6%増）、化学（同 21.2%増）が前年を上回った。

3. 建設関連

① 公共工事

10 月の公共工事請負金額は、143 億 19 百万円で前年同月比 17.1%増と 5 カ月連続で前年を上回った。

発注者別にみると、国が同 71.6%増、県が同 5.9%増、市町村が同 7.1%増、その他（独立行政法人等）が同 393.6%増となった。

② 着工建築物

9 月の着工建築物は、棟数は 413 棟で前年同月比 12.7%減、床面積は 8 万 2,219 ㎡で同 0.3%増となった。

内訳をみると、居住用は棟数が同 5.4%増、床面積が同 45.4%増となり、非居住用は棟数が同 49.4%減、床面積が同 38.2%減となった。

③ 住宅着工

9月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲のいずれも前年を上回った。県内合計は594戸で前年同月比47.8%増と6カ月ぶりに前年を上回った。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

9月の百貨店・スーパー販売額は、55億9,100万円で前年同月比2.1%減と2カ月ぶりに前年を下回った。

商品別では、衣料品は6億5,100万円で同11.6%減、飲食料品は32億4,700万円で同0.5%増、その他計は16億9,200万円で同2.8%減となった。

② 乗用車新車販売動向

8月の乗用車新車登録台数は、1,355台で前年同月比5.8%減となった。

車種別にみると、普通車は780台で同6.9%減、小型車は575台で同4.3%減となった。

5. 消費者物価指数

9月の宮崎市の消費者物価指数は、113.2で前年同月比3.7%増だった。

6. 企業倒産

10月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は7件（前年同月8件）で、4カ月ぶりに前年を下回った。負債総額は6億7,300万円（同4億3,000万円）で2カ月連続で前年を上回った。

7. 雇用情勢

9月の有効求人倍率は、前月から0.01ポイント増の1.21倍となった。

新規求人数は9,034人で前年同月比7.5%増となった。

雇用保険受給者数は、5,516人で同14.1%増となった。

〈今月のトピックス〉～県外からのスポーツキャンプ・合宿の受入実績

宮崎県の2024年度の県外からのスポーツキャンプ・合宿の受入実績は、団体数は1,343団体で前年度比31.2%増、延べ参加人数は20万8,457人で同19.4%増となった。延べ参加人数は過去最高を更新しており、ゴールデンウィークや夏休みの時期に学生チームの合宿件数が増加した。

春季キャンプ（25年1月～3月）については、団体数451団体（前年比19.3%増）、延べ参加人数10万7,568人（同10.8%増）とともに前年を上回った。野球のニカラグア代表チームや千葉ロッテマリーンズのキャンプが実施されたこと、社会人陸上チームの合宿件数が増加したことなどが要因である。一方、観客数は65万8,460人（同12.6%減）と2年連続の減少となった。

県外からのスポーツキャンプ・合宿の受入実績

